マンダリンヒーローの軌跡　Dream～夢

それぞれの競馬場の名を冠した重賞レース（大井競馬場＝サンタアニタトロフィー、サンタアニタ競馬場＝東京シティカップ）

調教師海外研修に参加した赤嶺調教師とArc Nation号

大井競馬場、サンタアニタ競馬場でそれぞれ両国の文化を紹介するイベントを実施している

サンタアニタダービーを制した名馬ジャスティファイ

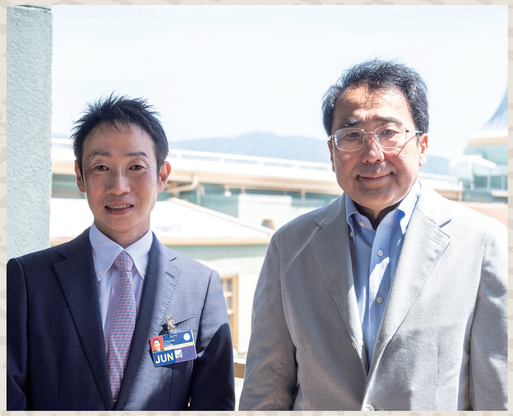
大井競馬場と米国のサンタアニタ競馬場は、1995年から友好交流提携を結んでいる。その内容は多岐にわたり、それぞれの競馬場名を冠した重賞レース（大井競馬場＝サンタアニタトロフィー、サンタアニタ競馬場＝東京シティカップ）の施行をはじめ、米国トップクラスのジョッキーを大井競馬場へ招いた騎手交流競走の実施や、サンタアニタ競馬場内にTCKステーブルを開設するなどして関係を深めてきた。2018年、そのフレンドシップの一環として、条件を満たした大井所属馬にサンタアニタダービーの出走枠（最大2枠）が提供されることになる。サンタアニタダービーはサンデーサイレンスやカリフォルニアクローム、ジャスティファイなどの歴史的名馬が優勝馬に名を刻む米国のGI競走で、ケンタッキーダービーに向けた重要な前哨戦のひとつ。この制度によって米クラシックへの出走が一気に現実味を帯び、世界がぐっと近づいた。

かねてから海外競馬への挑戦を夢見ていた藤田調教師は、この制度を活用して「いつかはサンタアニタダービーへチャレンジしたい」とチャンスを窺っていた。その資格を得るためには、まずサンタアニタダービーポイント（右表）を積み上げて総合順位で上位につける必要がある。そのうえでオーナーの了承を得なければならず、意欲はあれど、そうそうチャンスが巡ってくるわけではない。藤田調教師はマンダリンヒーローにその夢を託し、勝てば大きなポイントを得ることができるハイセイコー記念に照準を絞ったローテーションを模索する。そしてデビューから圧勝つづきで2連勝をおさめた2022年夏、「ハイセイコー記念を勝てたら、サンタアニタダービーに挑戦したい」と新井オーナーに長年の夢を打ち明けた。その時点では海外遠征などまったく頭になかったオーナーは「勝ってから考えましょう」とお茶を濁したが、その何気ない会話が夢舞台への第一歩になったことは間違いない。

主　催	対象競走		ポイント 1着	ポイント 2着
TCK	2歳新馬競走		40	—
	2歳JRA指定競走（1800m戦）		40	—
	〃　（1800m戦以外）		20	—
	上記を除く2歳競走		10	—
	ゴールドジュニア（SⅢ）		100	40
	ハイセイコー記念（SⅠ）		150	60
	セラフィナイト賞（準重賞）		80	30
	雲取賞（JpnⅢ）		150	100
南　関	南関重賞競走（2・3歳戦）		50	20
全　国	指定交流競走	JpnⅠ	200	80
		JpnⅡ	150	60
		JpnⅢ	100	40

ハイセイコー記念に優勝したマンダリンヒーロー

藤田調教師の思惑通り、デビューから不敗の4連勝でハイセイコー記念を制したマンダリンヒーロー。サンタアニタダービーポイント「150」を加算して条件となる200ポイントをクリアし、総合ポイントでも暫定トップに立つ。当然、藤田調教師のサンタアニタダービー挑戦に対する思いは強くなったが、それでもオーナーは馬への負担が心配でなかなか首を縦に振らなかった。つづく雲取賞で2着に敗れ、その大きすぎる野望は幻に終わるかと思われたが、藤田調教師は諦めなかった。「これを逃したら、もう2度とチャンスは巡ってこないかもしれない」と懸命にオーナーへ懇願しつづけ、その熱意がついにオーナーの心を動かした。「この挑戦が、地方競馬で働く人たちに夢を与えることになるのであれば…」（新井浩明オーナー）。そうしてマンダリンヒーローは、地方所属馬として初めて米国ＧⅠの舞台へ立つ準備が整った。


藤田輝信調教師（左）と新井浩明オーナー（右）